

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	市民植樹祭事業			事業コード	0660
所属コード	142000	課等名	林政課	所属コード	142000
課長名	高橋 山雄	担当者名	菊池 誠	課長名	高橋 山雄
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（旧総合計画体系における位置づけ）

総合計画 体系（旧）	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	活力ある農林業の振興	コード	1
	基本事業	生産意欲と技術の向上	コード	1
予算費目名 (H26)	一般会計 6 款 2 項 2 目 市民植樹祭事業（011-01）			
特記事項 (H26)				
事業期間	☒ 単年度 ☐ 単年度繰越 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 昭和 41 年度
根拠法令等 (H26)				

(2) 事務事業の概要

安全で快適な市民で生活を支え、市政の発展にとって重要な要素となっている市街地周辺の森林の働きなど、森林の持つ公益的機能の大切さを知ってもらうとともに、市民参加による植（育）樹活動を通して、健全な森林づくりと森林環境の保全に対する意識向上を図るため、市民植（育）樹祭を開催する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

森林の荒廃について考え、防止することを林業者のみならず市民全体に理解してもらうため。昭和 41 年度の外山森林公園整備時から計画的に実施しているが、事業自体はそれ以前から継続的に開催している。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

森林の持つ公益的機能の維持増進や森林環境の保全など、森林に対する一般市民の意識が高まってきており、18 年度までは植樹祭として開催、19 年度からは枝打ちなど保育作業を中心とした市民育樹祭として開催していた。平成 24 年度からは再び植樹祭を実施している。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が，何が対象か）

一般市民，森林愛護関係者，林業関係者，及び行政関係者

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 参加者	人	220	188	217	300	253
B						
C						

（3）26 年度に実施した主な活動・手順

開催場所は外山小学校林だった林を平成 22 年度に伐採した箇所であり，0.48ha に 1,200 本のカラマツを植樹した。今回は活着率が良いコンテナ苗で植樹を行った。植樹のほか，高性能林業機械で模範間伐を実演した。

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 植栽本数（※平成 18 年度まで，平成 24 年度から）	本	0	1,200	1250	1,250	1,200
B 保育面積（※平成 19 年度から平成 23 年度まで）	ha	2.0	0	0	0	0
C						

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

森林の重要性を感じてもらおうと同時に，林業の重要性の理解を深める。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 当日の参加者／募集人数	☐ 上げる ☐ 下げる ☒ 維持	人	0.73	1.00	0.72	1.00	0.84
B	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0	0
	②県	千円	0	357	588	588	590
	③地方債	千円	0	0	0	0	0
	④一般財源	千円	833	0	681	697	407
	⑤その他()	千円	0	1,147	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	833	1,504	1,269	1,285	997
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	240	240	240	240	240
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	960	960	960	960	960
計	トータルコスト A+B	千円	1,793	2,464	2,229	2,245	1,957
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

参加している市民が植（育）樹活動を行うことにより，森林の大切さを理解することにつながるため，政策の体系と結びついている。

② 市の関与の妥当性

多くの市民が参加して行う事業であり，森林の持つ公益的機能の維持増進と持続的な発揮の必要性を広く理解してもらう場として，森林整備（健全な森づくり）の一環として市が行うべきであり市の関与は妥当である。

③ 対象の妥当性

参加者の募集範囲を一般市民だけではなく、広域的に募集することを検討し、事業内容に変化をつけたり、他事業とのタイアップなど新規参加者の取り込みや事業範囲の拡大を検討する必要がある。

④ 廃止・休止の影響

広く一般市民に定着した事業であり、森林の有する公益的機能の維持増進と持続的な発揮の必要性や、森林・林業の重要性を理解してもらうためにも森林整備の一環として継続していく必要があるため、廃止・休止の際には影響がある。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

参加者の募集範囲を一般市民だけではなく、広域的に募集することや、事業内容に変化をつけ、他事業とのタイアップなど新規参加者の取り込みや事業範囲の拡大を検討することにより成果の向上の余地がある。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

参加する一般市民は、広報等による公募である。なお、森林の有する公益的機能の維持増進を持続的な発揮により得られる受益機会はすべての市民にある。また、一般市民の費用負担にしても、参加する市民はボランティアとして植（育）樹活動を行ってもらっているため公平である。

(4) 効率性評価

事業費の削減余地はあるが、人件費の削減はできない。理由として、事業費は関連事業とのタイアップや既存の林業用品（のこぎり等）の有効活用に努め、補助事業の活用などにより事業費を節減することは可能であるが、人件費は準備、運営等に要するので削除余地はない。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	農林業の振興	コード	21
	小施策（推進項目）	経営力・生産意欲の向上と後継者の育成	コード	1

(2) 改革改善の方向性

森林の公益的機能に対する市民の関心は高まる一方であることから、植樹祭・育樹祭など継続し、森林・林業に対する市民の理解を深めていく必要がある。

(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

平成 24 年度から植樹祭に再度転換し、事業を継続しているが、その開催内容などについて、市民がより多く参加し理解を深めるような工夫が必要と思われる。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

植樹祭については特に、市の伝統的な行事であり、人気を博していた時もありましたが、時代の変化により、参加者数が緩やかながら減少傾向にあります。一方では森林の意義を伝えることは重要になっております。現在、植栽できるような場所はほとんどないので、今後、育樹祭が中心となっていくが、市民が新たな関心を寄せるような育樹祭を目指す必要性がある。